

2023年度

奈良看護大学校

一般入学試験（前期） 問題

国語総合

注意事項

- 1 試験監督の指示があるまで問題を開いてはいけません。
- 2 試験問題は、問題1から問題18までです。試験時間は45分です。
- 3 問題冊子、解答用紙には必ず受験番号と氏名を記入し、解答用紙の受験番号欄には正確にマークしてください。
- 4 解答は、①～⑤の選択肢から正解を一つ選び、解答用紙の該当する番号をマークしてください。二つ以上マークした場合には誤りとなります。
- 5 マークは解答用紙の「マークの方法」の「良い例」のように丁寧に塗りつぶしてください。
- 6 試験中に問題の落丁・乱丁に気付いた場合は、手を挙げて試験監督に知らせてください。
- 7 問題冊子と解答用紙は回収します。室外への持ち出しは禁止します。

受験番号		氏名	
------	--	----	--

(問題は次のページから始まる)

第1問 次の各問いに答えよ。

問題1 次の傍線部の漢字の読み方が正しいものを一つずつ選択せよ。

- (1)
- ① 野球の基本であるキャッチボールを侮(あざけ)ってはいけない。
 - ② オリンピックに向かう代表選手の勇姿(ゆうし)に胸を打たれた。
 - ③ 戦争の真つただ中に、彼は非業(ひぎょう)の最期を迎えた。
 - ④ 当時の対応を礼賛(れいさん)した記事に、憤りを覚える。
 - ⑤ 恩師の訃報(けいほう)に接し、心より哀悼の意を表する。
- (2)
- ① 不朽(ふこう)の名画が、今まさによみがえる。
 - ② 彼女の柔和(じゅうわ)な表情は、皆に安らぎを与えた。
 - ③ 友人との別れの寂しさを、犬を飼って紛(こ)らす。
 - ④ 後輩の怠惰(たいまん)な暮らしが目に残る。
 - ⑤ 開幕戦で強豪チームに辛勝(しんしょう)した。

問題2 次の傍線部の漢字が間違っているものを一つずつ選択せよ。

- (1)
- ① 大事な書類を紛失(ふんしつ)してしまった。
 - ② 自宅と勤務先を往復(おうふく)する毎日が続く。
 - ③ 調理師を目指して専門学校に進学する。
 - ④ 人手不足のため、他部署に応援を要請(ようせい)した。
 - ⑤ 汚水による被害(げがい)は、深刻さを増している。
- (2)
- ① にんじんを細かく刻んで鍋に入れる。
 - ② 新型のウイルスによる感染(かんせん)は全国的な広がりを見せている。
 - ③ 清潔なタオルで額の汗を拭いた。
 - ④ 一方的な侵略(しやくりやく)行為を断じて許してはならない。
 - ⑤ 操縦(そうじゆう)席からの眺めは、私の想像をはるかに超えていた。

(3)

- ① 手編みのセーターを着て街に出かけた。
- ② 祖母は良妻賢母の典型ともいえる人である。
- ③ 昨夜の大雨で道路が完水した。
- ④ 脱炭素社会の実現は容易ではないが、取り組みを止めてはならない。
- ⑤ ささまざまな手法を試みて、爆発の実態解明に努めた。

問題3

(1)

彼は日頃から自分の体をコク使している。

- ① 農家で手作業による脱コクを体験した。
- ② 本件はコク益を損なう行為である。
- ③ 追いつめられた彼はとうとうコク白した。
- ④ 時計の時コクを合わせる。
- ⑤ 彼の冷コクな発言に批判の声が高まった。

(2)

敵の懐ジユウ作戦に頭を悩ませる。

- ① 果ジユウ百パーセントのジユースを飲む。
- ② 状況に応じたジユウ軟な対応を求める。
- ③ 周囲のジユウ民たちは直ちに避難した。
- ④ おせち料理をジユウ箱に盛り付ける。
- ⑤ 二人は主ジユウ関係を超えた固い絆きずなで結ばれていた。

(3)

核兵器の断絶を提シヨウする。

- ① 気シヨウ庁から最新の台風情報が発表された。
- ② 強い相手に真つ向からシヨウ負を挑む。
- ③ 彼女は抜群の歌シヨウ力を持っている。
- ④ 待望の新薬がついにシヨウ認された。
- ⑤ 選手の栄誉をたたえ表シヨウ状を授与する。

問題4 次の慣用句、四字熟語または故事成語の意味として正しいものを一つずつ選択せよ。

(1) 趣向を凝らす。

- ① 興味を持ってそのことに夢中になる。
- ② これまでとは違った感じや面白みを出すために、いろいろ工夫をする。
- ③ 味わいや面白みが少しもなく、無味乾燥に感じるようす。
- ④ ひどく無愛想で、そっけないようす。
- ⑤ 他人から、いろいろな工夫やたくらみを教えてもらう。

(2) 塚が明かない。

- ① 負け惜しみを言う。
- ② ある事態に対して手段を講じる。
- ③ どうしたらよいものかと、あれこれ考えをめぐらす。
- ④ 物事の決着が付かない。
- ⑤ 体面が保たれて、恥ずかしい思いをしなくて済む。

(3) 唯我独尊

- ① 世の中に自分ほど優れているものはないと、うぬぼれること。
- ② 自分で自分のことをほめること。
- ③ あることに心を奪われて我を忘れた状態になること。
- ④ 自分の有利になるように取りはからうこと。
- ⑤ 他人の迷惑など考えずに自分勝手に行動すること。

(4) 空前絶後

- ① 世間の粹や常識にとらわれず、自分のしたいように行動すること。
- ② 純真で汚れがなく、澄みきった美しい心。
- ③ これから先に、多くの困難が待ち受けているということ。
- ④ 台風が通り過ぎて、一気に青空が広がること。
- ⑤ 非常に珍しいこと。

問題5 次の意味に該当する慣用句または四字熟語として正しいものを一つずつ選択せよ。

(1) 他に先立って事を行っていたのに、急に仲間が手を引いたため孤立する。

- ① 梯子はしごを外される。
- ② 足を洗う。
- ③ 風上にも置けない。
- ④ 手が切れる。
- ⑤ レッテルを貼る。

(2) 自分には利益にならないのに、わざわざ危険を冒すことのとたとえ。

- ① 出しにする。
- ② 濡れ手で粟あわ。
- ③ 火中の栗くりを拾う。
- ④ 無理を通す。
- ⑤ 秤はかりに掛ける。

(3) 数々の実戦を積んで、武芸の技量を練り磨きあげること。転じて、実社会で多くの経験を踏んで鍛えあげられること。

- ① 議論百出
- ② 連戦連勝
- ③ 手練手管
- ④ 百戦錬磨
- ⑤ 切磋琢磨せつさくたくま

問題6 「インセンティブ」の意味として正しいものを一つ選択せよ。

- ① かかり合い。
- ② 何ごとかを行う際の誘因・動機・刺激となるものごと。
- ③ 聞きとること。
- ④ 事務などの仕事をする労働者。
- ⑤ 順を追ってなど系統的にはなく、手当たり次第。

問題7 「心理的に大きな打撃を与え、その影響がいつまでも残るようなショックや体験」を意味する語句として正しいものを一つ選択せよ。

- ① リコール
- ② オピニオン
- ③ ハードウェア
- ④ ミッション
- ⑤ トラウマ

問題8 「工面」の同意語として最も適当なものを一つ選択せよ。

- ① 勘定
- ② 苦慮
- ③ 作戦
- ④ 算段
- ⑤ 複製

問題9 「高尚」の反意語として最も適当なものを一つ選択せよ。

- ① 左遷
- ② 退転
- ③ 低俗
- ④ 不当
- ⑤ 冷血

問題10 傍線部の言葉の使い方が正しいものを一つ選択せよ。

- ① 父は舌の先も乾かぬうちにもう酒を飲んでいた。
- ② 常識のない態度に思わず眉をしかめる。
- ③ 雪辱を晴らすため、試合に全力で臨む。
- ④ 彼女はのべつ幕なしにしゃべっていた。
- ⑤ 周囲の皆に愛想を振りまく。

第2問 次の文章を読んで、後の問いに答えよ。

教育学の書物を開いて見ると、博物学の教育的価値を論ずるところにかならず次の一か条が掲げられている。すなわち「博物学を授ける目的の一は生徒をして自然の美なるを感服せしめ、したがって自然物を愛するの情を起さしめるにある」と書いてある。わが国の文部省(注1)の普通教育に関する法令の中にも、やはりこの説によったものと見えて全く同様なことが載せてある。(ア)博物学者の方にも同様な考えを抱いている人が多数を占めているようであるから、今日のところではこの説は世間一般にあまねく行なわれているものとみなさねばならぬが、われらはこの説を聞くことにつねにおかしく感じていたのであるゆえ、今その理由をここに述べていささか教育学者および博物学教授者の参考に供したいと思う。(A)

「なんじはいつ盗賊をやめたいか」という文句の中に「なんじは盗賊であった」という意が含まれてあるごとくに「自然の美を感服せしめる」という文の中には「自然は美なり」という断案が含まれてあるが、(イ)われらの考えによればこの断案がすではなはだ誤つたものである。虚心平気で自然を観察すれば、美なりと感ずる部分のあるはもちろんであるが、それと同時になはだ醜なりと感ぜざるを得ぬ部分もたくさんにある。これはきわめて明瞭なことで改めて例を挙げる必要もない。自然を観察するために郊外へ出かければ、荒れ果てた草原に牛や馬の骨が乱れ転つてある傍に腐りかかった猫の死骸が横たわり、はなはだしい悪臭を放っている。その側に美しい葎(すまね)の花が咲いていて、その隣りに新しい犬の糞(ふん)が積もっているというごときことを至る所で実見するが、これがすなわち小規模の自然の見本である。大なる自然の全部もこのとおりで美なるものも醜なるものもことごとくその中に含まれている。人の掃除した所だけは暫時例外のごとくに見えるが、捨て置けばかならず上に述べたごときありさまになってしまう。

われらの考えをありのままに言えば、自然には美なるものもあり、醜なるものもあり、美醜の中間のものもあれば、美醜以外のものもある。(B)また自然の中には美なる部分があるからといって直ちに自然は美なりと説くのは、あたかも象の尾だけを示し、象にはかような細長い部分があるとの理由で、直ちに象は細長いものなりと説くのと同じくはなはだしい誤りである。されば博物学を授けるに当り、もし生徒をして自然の美を感服せしめるをもつて目的とするならば、故意に醜なる部分を隠蔽し、美なる部分のみを挙げ、強いて事実を曲げて、自然に関係し全く転倒したる観念を生徒に与える覚悟で取りかからねばならぬ。公平に、ありのままに自然を紹介し生徒自身に直接にこれを観察せしめる普通の科学的方法ではけつして(ウ)以上のごとき目的を達することはできぬ。(C)

博物学は自然を研究する学科であるが、その目的はけつして自然の美を探ることでもなく、また醜を暴くことでもない、ただ自然のありのままを知ることである。それゆえこの学を修めた者は他の人らに比すれば一層深く自然を知ることになり、他の人らが醜なりと認めるものをなお精細に調べてその中に美なるものを発見することもあれば、また他の人らが外面のみを見て美なりと賞するものの内部を検査して醜なるものを見出すこともあり、美醜ともに他の人らよりはるかに深くこれを知るわけであるが、「深雪(みゆき)ふる遠き山辺(やまべ)も都より見れば長閑(のどか)に立つ霞(かすみ)かな」という歌にもある通り、遠方からただ表面のみを見れば非常に平穩に美しく見えるものも、近よつて細かく検すれば実際は醜(みにく)き大紛擾(おんじょう)であることを発見することもはなはだ多い。されば博物学を修めると自然の美なる部分を知ることますます深くなるが、それと同時にその醜なる部にもつねに気が付くを免れぬゆえ、多年この学に

身を委ねても(エ) かならずしも他の人らよりもいつそう自然の美を感じるようになるや否や、大いに疑わしいことである。(D)

また一方には動物学や植物学を修めて一々の動植物を精密に調べると、あまり非詩的になって自然を漠然と眺めている者に比べると、はるかにその美に感ずる力が鈍くなり、いかなる自然の美に触れても心の琴の緒が振動せぬようになると説く人もあるが、これもけっしてさような理由はない。桜は顕花植物中の双子葉類に属するもので、その花は花粉の伝播のために昆虫を呼び寄せる装置であると知っても、桜花の咲きそろったのを見て美しいと感ずることはそのために少しも減ぜぬ。また蝶は昆虫類の中の鱗翅類に属しその唇は左右の小顎が延びてできたものであると承知しても、菜の花に遊ぶ蝶を見て愉快に思う情はそのためにも毫も変らぬ。えくぼは顔面の某筋肉と某筋肉との空隙へ空気の圧力により皮膚が陥入ったもの、腰部の形好く丸みを帯びて柔いのは皮下の結締組織に脂肪が積もったゆえと承知している医学生らも美人を見ればやはり美人に見えるとおおり、およそ美なるものを見て美と感じ醜なるものを見て醜と感ずることは、その物に関する知識の多少とはあまり直接の関係はないように思われる。(E)

そもそも(オ) 美と醜とは何によって定めるかというに、その標準はけっしていつでもどこでも同一であるわけではなく、人種により古今により実に種々の相違がある。都の人は花も紅葉もない浦の苦屋を見渡して愉快に感じ、つねに苦屋の中に住んでいる浦人らはかえって浅草の仲見世を嬉しがる。歯を黒く染めねば人中へ出られぬと思つた時代もあれば前髪を突き出して得意然と歩く時代もあつて、美醜の標準はけっして確定したものではない。(カ)、自然にはただありのままがあるだけで、自然自身より見れば美もなく、また醜もない、これを見て美と称し、醜と称するのはすべてわれの方の働きである。しかして今日われらの有する標準をもつて公平に自然を測れば、前に述べたとおり美なる部分もある代りにまた醜なる部分もずいぶん多くその中に含まれてある。

(丘浅次郎「いわゆる自然の美と自然の愛」による)

(注) 1 文部省―現在の文部科学省、2 紛擾―乱れ、もめること。

問題 11 次の文は本文の一部である。最も適当な挿入場所はどこか。文中の(A)~(E)のうちから一つ選択せよ。(注) 偏頗…考え方が一方に偏っていること

それゆえ自然を論ずるにあたってその美のみを説くのはきわめて偏頗なことであつて、けっして正当とはいわれぬ。

- ① (A) ② (B) ③ (C) ④ (D) ⑤ (E)

問題 12 空所（ア）に当てはまる語句として最も適当なものを一つ選択せよ。

- ① また
- ② しかし
- ③ 一方で
- ④ しかし
- ⑤ そもそも

問題 13 傍線部（イ）「われらの考えによればこの断案がすでにはなはだ誤ったものである」とあるが、それはなぜか。最も適当なものを一つ選択せよ。

- ① 「自然」を一括りにしてはならず、「小規模の自然」と「大なる自然」は分けて考える必要があるから。
- ② 先入観を持たずに、素直に自然を観察してはじめて、「自然は美なり」と感ずることができるから。
- ③ 自然には、美なるものも醜なるものも存在するため、美なる部分のみを取り上げるのは不適切だから。
- ④ 「自然は美なり」という断案は人の掃除が行き届くことで成り立つため、人と自然を切り離して考えることはできないから。
- ⑤ 美なりと感ずる部分は暫時であるため、断案を下すには時間的な制約が必要だから。

問題 14 傍線部（ウ）「以上のこととき目的を達することはできぬ」とあるが、それはなぜか。最も適当なものを一つ選択せよ。

- ① 科学的な方法では、生徒の心に働きかけ、自然の美に感服せしめることは困難だから。
- ② 知識の浅い生徒自身が直接に自然を観察するだけでは、自然の美に感服することはできないから。
- ③ 知識の浅い生徒には、自然の美なるものと醜なるものの判別は困難だから。
- ④ ありのままの自然を紹介すると、自然の醜なるものや美醜の間にも行き当たる可能性があるから。
- ⑤ 博物学では、自然の美なる部分のみを対象とするため、普通の科学的方法とは観察対象が異なるから。

問題15 傍線部(エ)「かならずしも他の人らよりもいっそう自然の美を感じるようになるや否や、大いに疑わしい」とあるが、それはなぜか。最も適当なものを一つ選択せよ。

- ① 表面的には美しく感ぜられるものも、細かく観察すると醜なるものが見いだされるから。
- ② 博物学は自然のありのままを知る学問であるため、美醜について他の人よりも敏感になるわけではないから。
- ③ 自然の美なる部分と同時に醜なる部分に気が付くことも多く、自然の美のみを賞することが難しいから。
- ④ 他の人らが醜なりと認めるものから美なるものを見つけることは、その逆よりも困難な作業だから。
- ⑤ ありのままの自然の中には、美なるものよりも醜なるものの方が多く存在するから。

問題16 傍線部(オ)「美と醜とは何によって定めるか」とあるが、これについて筆者はどのように考えているか。最も適当なものを一つ選択せよ。

- ① 美醜の定義は時代に応じて変化し、これは自然が変化し続けるからである。
- ② 人種によって美醜の感じ方が異なるのは、その人種が住まう自然環境が異なるからだ。
- ③ 自然そのものには美醜はなく、人間が自然のどの部分を切り取るかで自然の捉え方が変化する。
- ④ 時代や国における人々の知識量に応じて、その物に関する美醜の捉え方は変化する。
- ⑤ 今日の我々は価値観が多様化したことで、自然に美なるものも醜なるものも感ずるようになった。

問題17 空所(カ)に当てはまる語句として最も適当なものを一つ選択せよ。

- ① ともかく
- ② なぜなら
- ③ とはいえ
- ④ 同様に
- ⑤ つまるところ

問題 18 本文の内容と合致するものとして最も適当なものを一つ選択せよ。

- ① 博物学の目的は「自然の美を感服せしめる」こととして教育学者の間でのみ、広く認識されてきた。
- ② 自然には美なる部分と醜なる部分があるため、常に人の手を加え自然の美を保つ必要がある。
- ③ 博物学とは、ありのままの自然について精細に調べる学問であり、自然の美醜を定義する学問ではない。
- ④ 自然の美を感じるためには、その対象について科学的に知りすぎない必要がある。
- ⑤ 住む場所と時代が変化することで、美醜の標準も変化していく。